



謹んで新春の御祝詞を申し上げます

平成十四年(二〇〇二年)元旦



市浦村役場

- 市長 高松隆三
- 助役 工藤誠一郎
- 収入役 山田勝明
- 教育長 木村義光
- 総務課長 桑野邦夫
- 企画財政課長 古川徹
- 住民福祉課長 三和省勝
- 経済観光課長 成田義正
- 建設課長 中居松男
- 教育次長 白川隆治
- 議会議務局長 三和徳衛
- 住民福祉課副参事 奈良勝義
- アトム保育園長 大沢ふみ子
- 市浦診療所
 - 内科医師 八木田一雄
 - 歯科医師 林宗輝

津軽北部広域事務組合市浦消防署長
吉田誠一



年頭の ごあいさつ

テロあり、狂牛病あり
三億円宝くじあり
そして、しし座流星群あり
雅子さまのご出産ありと
あまりにも劇的で

衝撃的で、かつ象徴的な
一年がアツという間に
過ぎていきました。

新世紀の夜明けはあまりにも
激動、激変の年であっただけに、
二十一世紀二年目の今年は、是
非とも平安であって欲しいと、
願っております。

二千五十年にはわが国の人口
は、約八千万人に減少すると云
われ、木村知事もまた五十年先
を見据えて県政を進めていると
云って居りますが、情報化、国
際化をはじめ環境の悪化やバイ
オ、ロボットなど多くの分野で
予測が不可能に近い中で、五十
年先を見据えることよりも、私
は四半世紀、つまり二千二十五
年までの近未来を志向した『マ
チづくり』に思いをはせている
次第であります。

あと二十五年、その時私は御
年九十三歳になりますが、私の
おふくろは現在九十四歳、運が
良ければその年代まで生きられ
るかもしれない、そう考えると

変える熱意 変わる勇気を

二十五年先は、現実の世界に見
えてくるのであります。

年末には八戸市まで東北新幹
線が伸び、青森、東京間は三時
間五分となり、十年以内には
青森市まで、二十年以内には函
館市まで新幹線が走り、今別町
には新幹線が停車し、蟹田町に
はカーブトレイン基地ができ、五
所川原自動車道も中里町今泉ま
で延伸され、津軽半島も『夢半
島』として脚光を浴びる時代が
くるものと信じております。

しかし、二十五年先には残念
ながらわが村の人口は、約一千
五百人と現在の約半分となり、
そのまた約半分が老人で占めら
れるという、予測が出されてい
ますが、その超高齢化時代を先
取りする形でわが村ではこれま
で『健康文化都市』の指定を受
け、『しづらんど海遊館』を建
設し、特別養護老人ホームを誘
致し、『医療と健康と福祉』を家
庭に出前する、包括ケアシステ
ムの充実を図り、更には村の中
心部を走る村道整備ではバリア
フリー化と、景観形成に配慮し

できたところでありませう。

また、平成十五年度には保健
センターを併設した診療所の新
築を計画しておりますが、将来
の医師の複数体制も含め、その
構想づくり検討委員会を設置す
ることとしており、それと合わ
せて『ニギニギ体操』を、全村
に普及させ健康日本一の村づく
りを目指す考えであります。

これからは、へ高い利便性や
刺激に囲まれた環境を持つ都市
と、へ優れた自然や歴史の中で
ゆとりある環境を持つ村とが、
自由に行き来する『都市・農村
循環型居住』など、新しいライ
フスタイルの展開が、可能にな
る時代になるものと思っており
ます。

こうした展望の中で、平成十
六年度には『中世の国際港湾都
市十三湊』の国指定を目指すこ
ととしているほか、新年度には
特にその名にふさわしい『十三
湊漁港』の新指定と、事業の同
時着工に全力を投入するととも
に、冬場の農業振興や国道三三
九号の中里町今泉から道の駅間

のバイパスの建設にも、メドを
つきたいと考えております。

また、相内地区の下水道事業
の完成に続いて、脇元地区の下
水道整備事業や、一般廃棄物最
終処分場の平成十五年着工へ向
けて、調査、設計に入る予定で
あり、さらに学校五日制の実施
にあたり、家庭や地域の教育力
の回復にも取り組んでいきたい
と考えております。

二十一世紀は、座標軸のない
漂流の時代だという人も居りま
すが、景気の長期低迷、未曾有
の財政危機、構造改革、市町村
合併それに道州制、学校五日制
ならびにペイオフの解禁等々、
難題山積であります。

漂流の時代というより、変革
の時代であります。
変革の時代には未来志向と地
域創造への新しい理念が問われ
ることになります。

未来へつながる道は必ずしも、
現在の延長線上にはなく、村民
一人ひとりが『変える熱意』と
『変わる勇気』を持たなければ
ならないと思えます。

これまでの行政依存の体質を
改め、この村のために自分は何
ができるかという、逆転の発想
を持って行動を起こすことであ
り、その勇気に期待して、新年
のあいさつといたします。



市浦村長
高松隆三

市浦村議会議員

工藤武則



明けましておめでとございます。

村民の皆様には希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、議会運営等各般にわたり村民の皆様のご支援ご協力を賜り、心より感謝とお礼申し上げます。

顧みますと新世紀元年は大揺れの幕開けとなり、暗い出来事が国内外に多発いたしました。

えひめ丸衝突事件をはじめとし、世界歴史上経験したことのない同時多発テロ事件、県内では、後半に入って、県内最大級の大手スーパーの倒産、さらには本県史上前代未聞の最大規模の巨額横領事件等、予測のつかない事件事故の多い、激動の年でありました。

当村では昨年、市浦村統合小

変革と英断に向けて

学校の誕生・「モール公園」のオープン、健康増進施設「しろらんど海遊館」の周年営業、生活関連施設の整備等の総合的な福祉対策の推進に努めて参りました。

また、老人福祉施設として小泊、市浦両村長、更には、両議会議員各位のご支援と協力のもと、特別養護老人ホーム、「すわんの里」の完成に大変喜んでおります。

さて、迎えた新年は、経済不況色が一段と強まる中、今、国はじめ地方

は財政改革や地方分権、市町村合併問題など大きな改革が予想されており大変重要な年になるものと思われま

す。その中で本村の基幹産業である農畜産物、水産、商工業や観光振

興をはじめ、さらには高齢化の加速化に向けての福祉対策の充実、教育環境問題、ゴミ処理問題などの課題が山積しております。



こうした情勢を踏まえ、私達議員も住民が一番必要としているものは何か、求めているものは何かを的確に把握し、村長と充分な意志疎通を図りながらその任務を果たして参りたいと考えております。

議会は村民の付託に応え政治を支える重要な機関であること

を、新しい年にあたり再認識し、議員一丸となって諸問題に取り組む所存でございますので、村民の皆様には、種々ご指導賜り

ますようお願い申し上げます。最後に皆様方のご多幸とご健勝をご祈念申し上げ新年のあいさつといたします。

新年を迎え心から

お祝い申し上げます

関東地区ふるさと市浦会

会長 鳴海 正毅



村民の皆様、会員の皆様お元気で新年をお迎えになったことでしょう。元旦に誓ったことや願い事などが成就しますよう心から願っております。

お祝いの言葉を皆様にお伝えできる機会を与えてくれた役場当局に心からお礼を申し上げます。

昨年は、森内閣から、小泉内閣が国民の圧倒的な人気で誕生し、構造改革・構造改革と訴えないと言いつつ、国会は日本

の自衛隊を国外に派遣する問題で大揺れに揺れ、結局は自衛隊を派遣可能にして、国際的にはメンツを保った形になった。国会も論争に論争して決着したが、国内問題は議論はなかった。自衛隊派遣問題で景気対策も考えないで、不景気は加速し、会社倒産、リストラは次々の発表、失業者が増え自殺者が増えていく。昨今、政策としては都会中心の政策であるような気がする。地方が栄えないと日本がだめになるとまで言う人がおりますが、私もその通りだと思います。今後の国の政策をしっかりと見つけて、理解力をつけたいとだめだと感じる今日この頃です。

平成十三年は、暗い年でした。今年には明るい年になっていただきたいと念じております。

私は昨年五月、定期総会におきまして、葛西孝会長から後任の会長に承認され、会長としての重職を背負うことになり、会

長としての職責の重要性を痛感している時に、高松村長とお話する機会に恵まれて、村長が市浦村について語ってくれたことがありました。村長は「村の発展と村民が健康で幸せであってほしい。そのために命がけて任にあたらなければならぬ、村に利益を与え経済豊かな村にしたい。そのためには、情熱と誠意が欠くことができない」と語ってくれた。その言葉が私の胸に伝わってくる内容だった。私は何か勇気を頂いたような気がしました。

関東地区ふるさと市浦会の会長として重要な任にいたからには、目標を持って活動していかなければ組織の活性化はないと思ひ、役員会議では活動方針



を示し、役員の賛同を得て実行、活動中である。

会の活動目標としては、
一、会員数の増を計りたい

平成十二年度は百八十人の会員数でしたが、平成十三年度は役員の努力により二百二十人に増えました。今年は役場当局と連絡を密にし、二百五十人を目標にして、緻密な活動をして行き会員の協力を得て輪を広げて行きたいと思っております。

二、市浦会・会報誌を発行

ふるさと市浦会が設立されてから昨年十一月で七年になりました。十周年には記念誌を発行したいと考えておりますが、今年には会報誌を発行したいと思っておりますので村民、会員の皆様のご協力をお願いします。

三、村が主催する、ふるさと探見ツアーへの協力

今年も探見ツアーに市浦会は全面的に協力し、参加者の確保などに役員全員全力で努力していく覚悟しております。

四、しづらんど海遊館の宣伝

・啓蒙

関東地区居住の市浦出身者以外の人に「しづらんど海遊館」の宣伝を行い一人でも多く市浦村を知っていただきたいと思います。

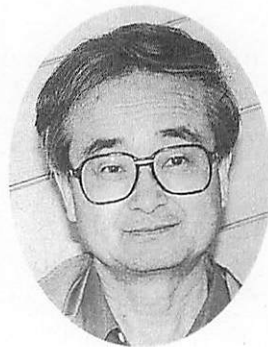
以上とりまとめのないことを

述べさせていただきましたが、役員一同、目標達成に向け努力して行きたいと思っております。私たちは、ふるさとがあるから心のより所があるのです。関東地区に居住の皆様、村のため

市浦村に「感動した!」

関東地区ふるさと市浦会

副会長 山田敏行



酒もすき餅もすきなり今朝の春 (高浜虚子)

月日はめぐって新世紀二度目の新年を迎えました。ふるさと市浦村は殊のほか厳しい寒さの中にあると思いますが、いま、ほのぼのとした温かさを感じながらここ数年のことを思い起こしています。

私は、これまで三回にわたって「ふるさと体験交流事業」に参加し、主として東京生まれの人たちと共に市浦村を訪ねる機会がありました。

に何かお返しできる良い案がありましたら、事務局長伊南喜仁さんまでご連絡ください。会員及び出身者の皆様とお会いし語り合う日を楽しみにしております。

この体験を通して感動したことが幾つかあります。その中で最も印象的だったことは、地方にふるさとを持たない東京からの参加者たちが、市浦村の豊かな自然や村人たちの人情の機微に触れていただく感動している姿でした。

市浦村には海、山、川、湖があります。全国に三千を超える市町村があっても、これだけ自然の恵みを持つ自治体は稀です。更に、地域の人たちの何とも言えない木訥な優しさにも独特のものがあります。

「感動した!」という参加者の声は、市浦の自然や人情、そして謎めいているために一層魅力的な十三湊の歴史などこの村が持つ財産の総体に対する率直な気持ちの吐露であると思います。大半の参加者はこもこも「機会があったらまた市浦に行きたい」と言っていますが、是非、



沢山の方に四季を通して市浦村を訪ねてもらいたいと思っております。津軽半島に市浦村があります。豊かな自然の中で、人々が地域に誇りを持って生の営みをしていることを、そして「本当の豊かさ」とはこのようなことを言うのではないかということを知っている人たちに知ってもらいたいと思っております。

これまで三回の「ふるさと体験交流事業」では、高松村長を初めとする村の幹部や役場の皆さん、多くの村の人たちに筆舌では言い尽くせない程お世話になりました。心から謝意を表すと共に、市浦村のますますの発展を願っています。

【略歴】市浦村磯松出身、

東京都新宿区議会議員八期

よろしく民生・児童委員です

このたび、民生・児童委員の改選が行われ、15の方が厚生労働大臣より委嘱されましたので紹介します。

任期は平成13年12月1日～平成16年11月30日までの3年間。家庭や学校での困りごとなどがありましたら、お気軽に地区担当委員にご相談ください。



小田桐三男さん



三和 淑子さん



三和 平作さん

◆市浦村民生・児童委員名簿 (15名)

担当地区	氏名	電話番号
相内	三和平作	62-3230
相内	三和淑子	62-3070
相内	小田桐三男	62-2340
相内	工藤蓉子	62-2321
桂川	越野清志	62-3212
太田	秋田洋子	62-3036
磯松	藤田時江子	62-2251
脇元	山田節子	62-2325
脇元	葛西澄江	62-2746
脇元	榎引笑子	62-2025
十三	松木芳子	62-2083
十三	有馬正年	62-3131
十三	柳谷みきゑ	62-2339
主任児童委員	白川稲子	62-2535
主任児童委員	竹谷博則	62-2252



藤田時江子さん



秋田 洋子さん



越野 清志さん



工藤 蓉子さん



松木 芳子さん



榎引 笑子さん



葛西澄江さん



山田 節子さん



竹谷 博則さん



白川 稲子さん



柳谷みきゑさん



有馬 正年さん

消防・ネットワーク

火事と救急・救助は一一九番

今年も『火の用心』

新年あけましておめでとうございます。村民の皆様におかれましては新年を新たな決意で迎えられたことと思います。そこで防災に対する意識を今一度確認してみたいかがでしょうか？

火の用心七つのポイント

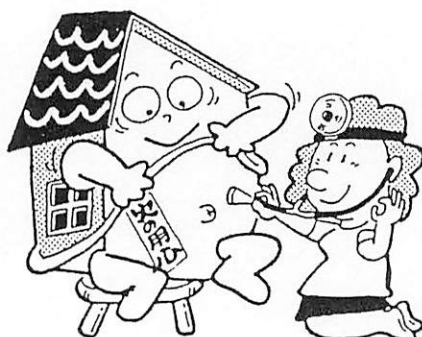
- 一、家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- 二、寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
- 三、天ぷらを揚げるときは、その場をはなれない。
- 四、風の強いときは、たき火をしない。
- 五、子供には、マッチやライターで遊ばせない。
- 六、電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない。
- 七、ストーブには、燃えやすいものを近づけない。

たしかめて

火を消してから

次のこと

市浦村においては平成十三年四月二十五日に磯松地区で発生した建物火災以来、建物無火災記録が二二〇日(十二月一日現在)となりました。これも一人ひとりの防火の意識の賜物です。火の取り扱いには十分注意し、この記録を延ばしましょう。



消防署からのお願い

今年も雪の降る寒い季節になり、雪で道路も狭くなります。消火栓・防火水槽付近への違法駐車は絶対やめましょう。また雪を捨てるのもやめましょう。

2001年ハイライト

二十一世紀最初の一年
となった二〇〇一年。
村でもいろいろな事業
が行われました。
写真で二〇〇一年を振
り返ります。



▲緑地広場公園が完成



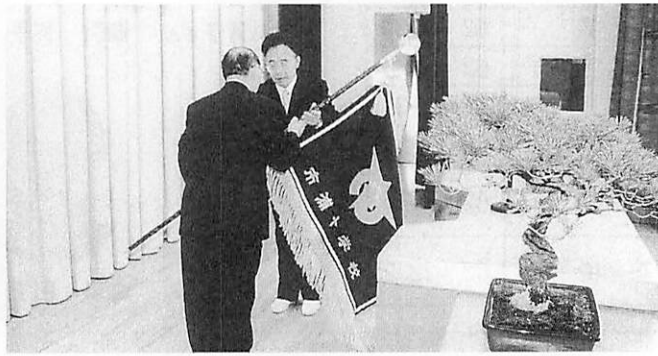
▲藤田はつさんが市浦村初の100歳に



▲村内四つの小学校が閉校



▲1日ドックで村民860人が受診



▲新生 市浦小学校が開校

1月

- 二十一世紀(二〇〇一年)の幕あけ。
- 二十一世紀カウントダウンイベント「しゅらんどお正月元氣アップ01」を開催
- 例年になく豪雪により九年ぶりに「村豪雪警戒対策本部」を設置。
- 十三地区・七里長浜に三年続けてオウギハクシラが漂着。

2月

- 「相内・蓮華庵の板碑」「十三・湊迎寺の五輪塔」「磯松の一本松」が村文化財に指定される。
- 白鳥まつり開催。
- 市浦村生涯学習推進大会。(「ミセン」)
- セーフティ300事業の報償金100万円が「鉄腕アトムチーム」に。
- 農業委員会選挙告示。十人が無投票当選。
- 第五回町内会親善ソフトスポーツ大会。
- 相内小学校で閉校式百二十三年の歴史に幕を降ろす。
- 四月に開校する「市浦小学校」の校章と校歌が公募により決まる。

3月

- 太田・十三・脇元小学校で閉校式。それぞれ百八年、百二十五年、百二十九年の学校の歴史に幕を降ろす。
- 村内四小学校で最後の卒業式を挙げる。思い出の詰った校舎に別れ。
- 藤田はつさん(磯松)が市浦村で初の100歳の台大台。村から顕彰状と祝い金が贈られる。
- ボランティア活動が評価され、金木高・相内分校(当時)へ県知事より感謝状が贈られる。
- 十三地区に緑地広場公園が完成。

4月

- 平成十三年度がスタート。一般会計当初予算額は二十四億三千二百万円。
- 村内四小学校を統合した新生「市浦小学校」開校。百五十七人の児童・十七人の先生でスタート。
- 家電リサイクル法がスタート。
- 一日ドック(総合健診)で村民八百六十人が受診。
- 三回目の「セーフティ300事業」が四月六日スタート。九十チーム、九百二十人が登録。
- 市浦ライオンズクラブが役場前に「奉仕と友愛の塔」を建立。
- 相内浄化センター建設工事に着手。

5月

- ふるさと市浦会の新会長に鳴海正毅さんが就任。

6月

- 相内・太田地区で虫送り開催。
- 札幌よさこいソーランまつりに「天竜神風しゅら」が初参加。



▲東京都で関東地区ふるさと市浦会交流会を開催



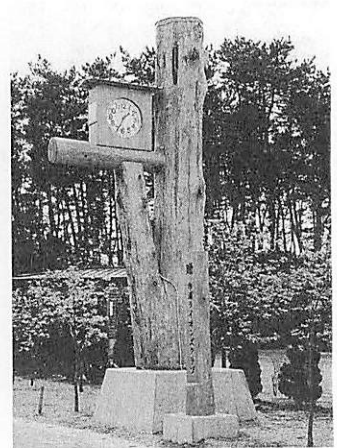
▲モー林公園が完成



▲ウィンドサーフィン全国大会「ドコモレーシング2001」



▲海遊館がオープン1周年



▲ライオンズクラブが友愛の塔を建立



▲市浦村合併問題勉強会に70人

村文化財に指定



相内・蓮華庵の板碑



磯松の一本松



十三・湊迎寺の五輪塔

7月

- ふるさと探見ツアーに首都圏から三十一人が参加。
- 五所川原市で開催された、奥津軽虫と火まつりに「相内の虫送り」が参加。
- 十三湖と蟹田駅を結ぶ「新やまなみ号」が運行。
- ウィンドサーフィンの全国大会「ドコモレーシング2001」が十三湖で開催。
- 第十九回青空リレー式交通安全大会（コミセン前）
- 市浦村消防団観閲式。（相内地区）
- 東北馬力大会開催（大沼公園）

8月

- 市浦村最高齢者、藤田はつさん（100歳）が亡くなる。
- 成人式。四十五人が大人の仲間入り。（コミセン）
- 道の駅十三湖高原と一体となった「モー林公園」が完成。
- 「新やまなみ号」が運行終了。運行期間の乗車人員は266人。
- 第四回十三湖高原まつり。（道の駅十三湖高原）
- 十三の砂山まつり（十三地区）。坊様踊りとねふた運行（相内地区）
- 市浦消防署に新ポンプ車を配備。
- 県民体育大会（三沢市）
- 金木高相内分校が旧脇元小学校校舎に移転、市浦分校に。

9月

- 脇元岩木山神社大祭。（脇元特設ステージ）
- 唐川遺跡が大量の鉄を生産した工房跡と推定されるとの調査発表。
- 平成十三年度敬老会。（コミセン）
- 第九回県民駅伝競争大会。（青森市）村の部で二十三位。
- もや焼き陶芸クラブが社会参加章（大臣表彰）を受賞。

10月

- 1-T講習会がスタート。
- 脇元地区に特別養護老人ホーム「すわんの里」がオープン。
- 地域安全フェア・イン・市浦が開催される（コミセン）

11月

- 関東地区「ふるさと市浦会」交流会を東京都で開催。百五十人が参加。
- しゅらんど海遊館オープン1周年記念で木原光知子さんの講演会開催。（コミセン）
- 第二十二回あすを拓くふるさとまつり。（コミセン）
- 平成十三年度市浦村褒賞受賞式。（あすなるホール）
- 第三十二回市浦村保健・医療・福祉共同計画会議開催。（コミセン）
- 平成八年度から整備をすすめていた実取地区ほ場整備事業が完成。
- 商工会青年部が設立三十周年を迎え記念式典開催。

12月

- 市町村合併問題勉強会開催七十人が出席（あすなるホール）



元気かい通信 その10

お待たせしました。12月より会員の方のための新しい運動プログラムが始まりました。今回は中高年齢者の方でも十分楽しみながら、参加していただける運動内容です。みなさん一緒に参加して下さい。海遊館はこの冬も熱くみなさんのお越しをお待ちしております。

みんな海遊館で集れ！
新しい運動プログラムが待っています！

今回は、十二月からスタートした新しい運動プログラムを三つご紹介します。

しなやかで疲れにくい
身体をつくる
『のびのび体操(水)』

元気海プールの中で実施する高齢者の方用の水中の運動です。ゆったりとした動作により柔軟性を獲得し、体をしなやかに保ち、疲れにくい身体をつくることを目的とします。疲労回復にぴったりな体操です。

水中との違いを
楽しんで下さい
『のびのび体操(陸)』

休憩室の畳の上での運動です。水中と同様、ゆったりとした動作により柔軟性を獲得し、身体のしなやかさを保ち、疲れにくい身体をつくります。水中との違いを感じながら参加して頂く一層効果的です。おじいちゃんやおばあちゃんもみんな参加して頂ける中高年齢者の体操です。

ストレス解消に効果抜群
『ぶかぶかりラックス』

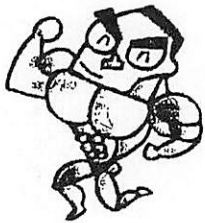
水中での癒し系の音楽を聞きながら、呼吸調整を行うストレッチ解消や疲労回復のためのプログラムです。温かい海水の中、思いきりリラックスして頂き、瞑想にふけてみて下さい。

これらの運動プログラムは、これまでと同様、時間制で実施しています。

また海遊館までは村内巡回バスをご利用下さい。これから冬本番、巡回バスを利用すれば安全に施設までお越し頂けます。

なお、巡回バスは無料で、時刻表は下記のとおりです。時間や各停留場所は目安としていますが、バスが通過の際には手を挙げて乗車下さい。巡回バスを上手に利用

してこの冬も元気に過ごしましょう。



巡回バス時刻表

午前乗車の便	〈太田・相内・十三・磯松方面〉						
	9:20 奈良幸雄宅前	9:21 古川商店前	9:22 木村タミ宅前 ※バイパス交差点付近	9:26 三浦忠雄宅前	9:27 みち銀市浦出張所付近	9:28 三和クリーニング店前	9:35 浜田商店前
	9:37 十三支所前	9:38 十三漁協前	9:40 中の島前	9:46 磯松公民館前	9:50 海遊館(到着)		
	〈脇元方面〉						
	10:05 海遊館(出発)	10:10 旧漁協前	10:11 脇元支所前	10:15 海遊館(到着)			
午後乗車・降車	〈太田・相内・十三・磯松方面〉						
	12:35 海遊館(出発)	12:37 磯松公民館前	12:46 浜田商店前	12:46 十三支所前	12:47 十三漁協前	12:48 中の島前	12:55 三和クリーニング店前
	12:56 みち銀市浦出張所付近	12:57 三浦忠雄宅前	13:02 奈良幸雄宅前	13:03 古川商店前	13:04 木村タミ宅前 ※バイパス交差点付近	13:12 三浦忠雄宅前	13:13 みち銀市浦出張所付近
	13:14 三和クリーニング店前	13:20 磯松公民館前	13:25 海遊館(到着)				
	〈脇元方面〉						
	13:40 海遊館(出発)	13:45 旧漁協前	13:46 脇元支所前	13:50 海遊館(到着)			
最終便	〈太田・相内・十三・磯松方面〉						
	17:10 海遊館(出発)	17:13 旧漁協前	17:14 脇元支所前	17:17 磯松公民館前	17:25 中の島前	17:27 十三漁協前	17:28 十三支所前
	17:29 浜田商店前	17:35 三和クリーニング店前	17:36 みち銀市浦出張所付近	17:37 三浦忠雄宅前	17:42 奈良幸雄宅前	17:43 古川商店前	17:44 木村タミ宅前 (終了) ※バイパス交差点付近

1月10日は『110番の日』です

110番は、警察への緊急通報用電話番号で、交通事故や泥棒、ケンカなど緊急に通報しなければならない場合に利用します。

この110番制度は、昭和23年から導入され、県民の安全な暮らしを守るため欠かすことのできない制度として定着してきています。

その一方で「間違い」や「いたずら電話」が多く、そのため回線が塞がり、一分一秒を争う緊急事態の通報が掛かりにくくなる場合があります。また、「こんな事で110番していいのだろうか?」とためらったり、せっかくかけても、慌てていて通報の内容が正しく伝わらなかったことも少なくありません。

そこで、警察では、110番の仕組みや機能、公衆電話や携帯電話からかける場合の注意事項などについて、県民の皆さんによく理解していただくために、昭和61年から毎年1月10日を「110番の日」と定

めて、110番の正しいかけ方や積極的な利用を呼び掛けています。

110番は、県内のどこの地域からかけても、青森市にある警察本部の通信指令課につながり、直ちに、無線指令で最寄りの警察署のパトカーや交番、駐在所の警察官が現場に急行する仕組みになっています。

警察本部では、110番通報に迅速、的確に対応するために、110番通報があった場合、一つの事案に対して、受理担当と無線担当が二人ひと組みで対応しています。

1. 何があったのか?
2. どこで?
3. いつ?
4. 犯人は?
5. どんな状況か?
6. あなたの名前、電話番号?

を順番にお聞きしますので、落ち着いてははっきり話してください。

通報内容を聞いている間に無線指令が発せられ、目標めざしてパ

トカーが現場に急行します。

さらに、通信指令課では、ファックス110番を設置し、耳や言葉に障害をお持ちの方から文書による110番通報も受付けています。

ファックス番号は、017-722-0110（通称「第二の110番」）ですのでご利用ください。

また、携帯電話やPHSから110番通報する場合は、

- 現場を離れない（現場の状況、場所を詳しく説明できる）
- 移動しながら話さない（電波状態により途中で切れてしまう）
- 通報後は電源を切らない（警察から電話を掛け直すことがある）等に注意してください。

緊急性のない一般的な困りごと相談や警察に対する意見・要望などは、警察本部の警察総合相談電話 017-735-9110（プッシュ回線#9110）や最寄りの警察署・交番・駐在所などをご利用ください。

●守ります あなたの安全 110番 ●安心の 相談ダイヤル #9110

市浦村議会報告

第四回定例会

平成十三年市浦村議会第四回定例会は、十二月十日から十三日まで開かれ、次のことが審議されました。

◎人事案件
市浦村教育委員会委員の任命につき同意を求めることについてほか一件

◎予算関係
平成十三年度市浦村一般会計補正予算（第五号）ほか四件

◎意見書等
私学助成拡充を求める意見書ほか四件

◎補正された主な事業
☆漁業集落環境整備事業 五百三十三万円
☆法定外公共物調査事業 二百二十万円

一般質問は、三和孝治議員、三和均議員、福井俊美議員の三人の議員が行い、次のことを質問いたしました。
三和孝治議員
①市町村合併について
②「しゅうらんど海遊館」の利用状況について

☆相内地区公共下水道整備事業 二億六千万円
☆旧十三小学校転用計画事業 四十八万八千円
☆郷土芸能保存助成事業 二百四十万円
☆医療衛生材料費 千四百九十二万円

三和均議員
①課の再編について
②減反の取組み等について
③村史及び十三湊遺跡について
福井俊美議員
①市町村合併について
②健康増進施設について
③村の財政状況について
④西北五環境整備組合の一般廃棄物焼却施設について

◎条例関係
市浦村一般職員の給与に関する条件の一部を改正する条例ほか二件

①市町村合併について
②健康増進施設について
③村の財政状況について
④西北五環境整備組合の一般廃棄物焼却施設について

支介 千紹

今年(うま)は午(とし)年

人と馬との長いつきあい

「馬には乗ってみろ、人には添うてみる」「馬の背をわける」「生馬の目を抜く」……。馬に関する慣用語や諺は数知れません。馬がいかに人と深くかかわってきたかがうかがわれます。

馬が最初に家畜化されたのは、今から五千年ほど前の中央アジアのこと。以来、人や荷を運んだり、物をひっぱったり、農耕を助けたり、戦場で働いたり、さまざまな場面で大きな役割を果たしてきました。その国や地域に大昔からいる馬を「在来馬」と呼びますが、日本では現在、北海道、長野、宮崎、沖縄などに計八種類がいます。これらの馬の祖先が、いつごろ、どういうルートで日本列島に渡ってきたのかは、まだはっきり分かっていません。しかし、縄文・弥生時代には、役割ははっきりしながら、馬がすでに家畜のように利用されていたようです。古墳時代の遺跡からは馬の埴輪も出土しています。

馬は、古典にもしばしば登場します。最古の歌集といわれる「万葉集」には、馬を詠んだ歌が八十首近くあり、馬が貴重であったことが読み取れます。たとえば、柿本人麻呂の歌。山科の小幡の山を 馬はあれど 歩ゆ吾が来し 汝を念ひかね

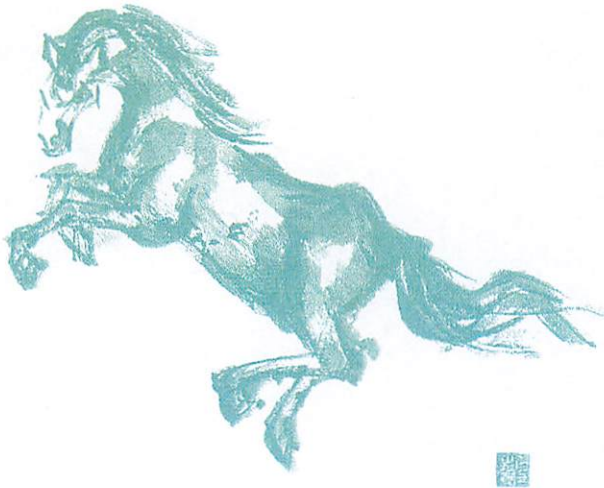
「私には馬があるが、あなたを思う心に耐えかねて、山科の小幡の山道を歩いてきたのです」という恋歌です。人麻呂のように宮廷仕えする階級の人が馬を所有できたことが分かります。

「走る芸術」「馬の耳に念仏」

馬と聞くと真っ先に競馬を連想される方も多いと思います。馬同士を走り競わせる行事は、走馬、競馬などといって、奈良時代から行われていました。特に端午の節句(五月五日)の競馬は恒例で、ときの天皇が臨観したとの記録が残っています。

現代では、競馬といえどサラブレッド。より速く走るようにと、品種改良を重ねてつくりあげられた馬です。広い胸幅、よく発達した後軀、四百キロを超す体を支える細い脚。たてがみをなびかせて走る姿は、「走る芸術品」といわれるだけあって、ほれほれとする美しさです。

一方で「馬の耳に念仏」「馬耳東風」と、無反応、役立たずの代表のようにいわれる馬の耳。私たちが何気なく使ってしまう諺ですが、これは誤解と考えてよ



さそうです。馬の耳は、前方にある物の距離を測るなど、優れた機能をもっています。「馬の耳に念仏」は、悠然とした馬の姿から連想されたものなのでしょうが、馬にとっては迷惑な話ですね。

馬は、人間の願いごとにも関係があります。そう、絵馬です。その昔、神に祈願してかなえられたとき、神馬とするように馬を献納しました。しかし、貧しい民は馬を納めることができないので、代わりに馬の絵を描いたり、馬の形に作った木片を献じたりしました。それが絵馬の始まりだといわれています。午年の今年もまた、神社にはたくさん絵馬が献納されることでしょう。

国民年金「コーナー」

四月から国民年金の事務手続きが変わります

地方分権一括法により国と地方公共団体の事務が見直され、市区町村での国民年金保険料の収納事務が廃止され、国が直接保険料を収納することになります。

なお、平成十三年度分の保険料については、平成十四年四月三十日までの間は、市区町村で保険料を収納することができま

す。また、第三号被保険者関係の届出は、配偶者の事業主等を経由して届出することになります。

◎**保険料の納付が変わります**
国民年金の保険料は、国に直接納めることになりました。これまで市区町村から送っていた「国民年金保険料納付案内書」は、四月より国から直接送られます。

◎**口座振替を「利用下さい」**
郵便局、農協・漁協、信用組合、信用金庫、労働金庫で納めることができるようになります。

◎**国民年金の保険料納付は、口座振替が便利です。**口座振替をご利用される方の保

険料は、毎月預貯金口座から自動的に引き落とされますので、納め忘れがなくて確実です。この機会に口座振替をご利用ください。

◎第三号被保険者の届出

第三号被保険者の届出は、現在、第三号被保険者本人が市区町村の窓口へ届出を行うことになっていますが、平成十四年四月からは、被保険者の届出手続きの利便性向上や届出漏れ防止を図るために、配偶者の勤務先の事業主等を経由して届出することになります。

国民年金についてのお問い合わせは、役場住民福祉課国民年金係まで
公六二―二二二(内線七二)

あともがき

冬將軍が訪れ、これからは雪片付けに追われる日が続きますが、皆様方はいかがお過ごしでしょうか。▼21世紀元年は、「二〇二(狂牛病)」「不況」となにかと暗いニュースが多い年でした。今年には明るいニュースが増えることを心から願わずにはいられません。そして一年を健康に、無事に過ごせますように。(三三)